

第30回 宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時：平成29年5月23日（火） 13：30－15：00

2. 場所：内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、松井部会長代理、青木委員、上杉委員、下村委員、中須賀委員、
中村委員、山崎委員、渡邊委員

(2) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、佐伯審議官、松井参事官、高見参事官、
行松参事官、守山参事官

(3) 関係省庁等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課宇宙利用推進室 室長	庄崎 未果
宇宙航空研究開発機構 理事	浜崎 敬
宇宙航空研究開発機構第一宇宙技術部門宇宙利用統括付 ミッションマネージャ	祖父江 真一

4. 議事要旨 (○:意見等)

(1) J P－U S O P 3の進捗状況について

資料1に基づき文部科学省から説明を行った後、以下のような意見等があった。

○2015年のISS（国際宇宙ステーション）延長の議論の際には、CSOC（共通システム運用経費）の相殺の可能性が重要な論点の1つであったため、小型回収カプセルについても可能性を検討いただきたい。

○同様に、2015年の議論ではHTV-Xの費用対効果の最大化についても重要な論点の1つであったため、その点を踏まえたうえで開発を進めていただきたい。

○超小型衛星の「きぼう」からの放出サービスについて、国内外の衛星運用者からの要望や競合の状況を踏まえたうえで、引き続きサービスの向上に取り組んでいただきたい。

(2) 宇宙産業ビジョンについて

資料2-2に基づき事務局から説明を行った後、以下のような意見等があった。

○素晴らしいビジョンである。世界では小型衛星打上げのコスト競争が激化しているため、その状況を踏まえたくて迅速に取組を進めていただきたい。

○宇宙産業に関する我が国の取組姿勢を諸外国に示すためにも、このビジョンを英訳して公開すべきではないか。

(3) 調査分析・戦略立案機能の強化に係る取組について

資料3に基づき事務局から説明を行った後、以下のような意見等があった。

○平成28年度の実施における検討では、様々な観点から深い分析を行うことができた。今後は、このような機能をどのように維持していくのか、仕組みづくりが課題である。

(4) 宇宙基本計画工程表の中間取りまとめについて

事務局から、平成29年度の宇宙産業・科学技術基盤部会関連工程表の中間取りまとめの方向について説明を行った後、以下のような意見等があった。

○調査分析・戦略立案機能の強化（工程表38）について、昨年度の実施結果を踏まえつつ、機能強化の検討も引き続き進めていただきたい。

○我が国が世界に先駆けて早く安く衛星を打上げられるよう、国際競争力の強化を推進いただきたい。

○宇宙科学に関する人材育成を強化すべく、具体的な政策に落とし込めるよう検討する必要がある。

○IT業界を含め、様々なスキルを持った人材が宇宙産業で活躍できるような取組を推進いただきたい。

以上